

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【下落合小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	知識・技能において、特に3年生の国語と6年生の理科が市平均より2pt以上低かった。改善策として、3年生では主語述語の関係が理解できていない傾向なので、物語文や説明文で主語述語を読み取る経験を重ねて理解を図っていく。6年生では顕微鏡・簡易検流計・方位磁針の正しい使い方の理解度が低かったため、実物を実際に扱う体験を多く設け理解を深めていくようにする。
思考・判断・表現	取り入れた情報、資料をもとに、「自分なら」という個の意見を大切にしつつ、他者との意見交換で思考の幅を広げる機会を増やしていく。1時間の授業の中で児童が意見を言い合い、課題に対し思考・判断させる場を設定し、児童の声で作られる学校を活性化させる。インプットはできるがアウトプットが苦手な児童がいるので、ICTを活用して発表物を装飾し、自信を持たせ、プレゼンの機会を増やして表現力の向上を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	児童が関心を持ち、実施・調査・まとめを主体的に取り組みたいと思えるような学習のプラットフォームを複数用意し、学習の多様性を見出す。スクールダッシュボードを活用した学習記録の積み重ねを図り、児童に達成感や自信を持たせ、さらに主体的に取り組む原動力となるようにする。児童が主体的に取り組むためのアイデア・技術等を、教職員間で共通理解・研修していけるような機会を設ける。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の「知識・技能」を、令和4年度の自校の結果より、全教科2pt向上させる。	⇒ ・基礎・基本や算数の習得すべき知識内容の問題を反復・習熟できるよう、計画的に取り組ませる。 ・学習計画や達成度が分かるものを用意し、積み重ねて自己のふりかえりをさせる。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の「思考・判断・表現」を、令和4年度の自校の結果より、全教科2pt向上させる。	⇒ ・一つ一つの事象に対し自分の考えを持たせる発問の工夫と、考えをオクリンクやムーブノートを使ってクラウド上に載せ、それを互いにシェア出来る学習時間を設け、自分の思考をさらに広く、深くできるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の「学びに向かう力等」における各教科への「好きか」という質問項目で、肯定的な回答を全学年2pt向上させる。	⇒ ・児童の探求心や知識欲を高める発問や問題提示、また自らの取組(達成度)が分かる記録媒体を用意し、次への意欲や自信につなげさせる。 ・本時のねらいに対するまとめと振り返りをさせる。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	全学年全教科の知識・技能の偏差値は平均0.275pt上昇 異集団経年比較において、今年の5年生は昨年の5年生より全教科の知識・技能の偏差値が向上しており、算数では目標に近い1.9pt上がった。6年生の社会においては、昨年度より知識・技能の偏差値が3.4ptも向上している。逆に6年生の理科は、昨年度より4.1pt低下している。	B
思考・判断・表現	全学年全教科の思考・判断・表現の偏差値は平均0.6625pt上昇 異集団経年比較において、算数の思考・判断・表現の偏差値が、昨年度より3年・5年・6年生で向上している。同集団経年比較においては、どの学年も昨年より今年のほうが算数の思考・判断・表現の偏差値が0.6pt以上向上している。	B
主体的に学習に取り組む態度	全学年全教科の「学びに向かう力等」の「好きか」の肯定的回答平均は1pt下降 高学年における「学びに向かう力等」の国語と算数への「好きか」の肯定的回答が市の回答割合を上回り、5年では国語が5.1pt、算数は9.2pt高かった。しかし理科に対しては市の回答割合よりかなり低く、6年生では約半数程しか肯定的回答が得られず、教科によって極端な結果となった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語と算数ともに、県や全国の数値を上回っている。算数で正三角形の意味や性質について理解しているか見る問題で解答累計を見ると、基礎的基本的な知識は定着しているが、文章の意味を捉えイメージするような応用問題に課題が見られる。
思考・判断・表現	国語と算数ともに、県や全国の数値を上回っている。国語では自分の考えが伝わるよう工夫する問題で、解答類型より資料から読み取り考察することに課題が見られる。算数では図形の面積の大小を判断する問題で、合同となる条件についてとらえきれないことに課題が見られる。
主体的に学習に取り組む態度	児童の91.3%が、土日・平日1日平均30分以上家庭学習し、学習習慣が身につけている。国語・算数において「好きか」という質問への肯定的回答が県や全国を上回る値となっている。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語の全体正答率は市平均より平均正答率が4.4pt高く、特に「文の中の指示する語句の役割についての理解」の問題は正答率95%で無回答もなく、高い値となった。算数はどの領域も市平均より平均正答率が3pt以上高く、特に「数と計算」は市平均より8pt高い。計算が得意な児童が多い傾向であることが分かる。	小4	国語・算数ともに平均正答率が、市平均より約7pt高い結果となっていて、算数においては3年生の時より偏差値が1.4上がっている。国語の「文の中の指示する語句の役割についての理解」の問題は、正答率97%と非常に高い値となった。算数のひし形の特徴を理解する問題は、8~9割の正答率で無回答がなく、図形への認識の高さが分かる。
小5	国語・算数・社会・理科の全教科において平均正答率が5.6pt以上、市平均より上回っている。算数では二つの数量の間にある関係から、値を求めたり式を立てたりする問題は、平均93.7%と高い正答率となっている。社会は他教科より9割以上の解答数が多く、逆に無回答数が最も少なく、社会への関心・理解の高さが伺える。	小6	国語・算数・社会・理科の全教科において平均正答率が市平均より上回っており、特に算数は9.2pt上回っている。また、5年生の時より偏差値が1.2上がっている。理科は市平均より平均正答率が上回っているが、5割を下回っており、粒子を柱とする領域においては、市平均より下回る結果となった。特に、物の溶け方や顕微鏡操作への理解が定着していなかった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし